

花火大会警備における「区域」の一例

～東京都「いたばし花火大会」の例～

- (注)
- 区域の区分は、予想される雑踏の状況、警備員数等の諸条件により変わり得る。
 - 警備員数は、予想される雑踏の状況、警察官数等の諸条件により変わり得る。

(区域の区分の考え方)

- 土手：階段やスロープなど観客が密集する場所ごとに、それぞれ1区域。
- その他：駅、橋など観客が密集する場所ごとを基本に、それぞれ1区域。

(花火大会の概況)

- 観客数は約14万人。
- 会場への最寄りの駅は高島平駅であり、観客の大半が同駅を利用するが、新高島平駅の利用者も多い。
- 花火打上会場東には、国道が通る大橋が架かっており、多数の観客が通行する。
- 土手は、南北が急斜面となっていて、通路である階段やスロープに観客が滞留しがちである。

